

出井菊太郎先生

正門を入れて右奥に旧北川辺名誉町民第一号の
出井菊太郎先生の胸像があります

至誠の人、義の人、熱の人、夢多き人
出井菊太郎先生についてご紹介します



胸像



校長室廊下の写真

出井菊太郎先生は、明治29年5月22日に北川辺村（利島村）大字麦倉に生まれました。村は昔から毎年のように大水害を受けて荒れ果て、村民は苦しみのどん底に落ち込んでいました。先生は、「村をたてなおすには教育によって立派な人を育てることが第一である」と考え、教師を志しました。夢が叶い、杉戸小学校に3年間勤務した後、母校である北川辺西小学校（利島尋常高等小学校）に迎えられました。その後、28歳の若さで第9代校長となり、更に13年間、郷土教育のために心血を注ぎました。先生の優れた学校経営は全国から注目され、指導を受けようとする者が後を絶たず、その功により文部大臣表彰を受けました。

折しも、国策として満州開拓事業が進められることになり、先生は意を決して母校を退き、国の求めに応じて満州開拓団長として一家をあげて満州へ渡り、北満州老街基埼玉村の建設に10年間献身しました。しかし日本は太平洋戦争に敗れ、苦難の末帰国しました。

その後、教え子たちの切なる勧めにより首長選挙に出馬し、利島村長に当選して二期8年間その手腕を発揮しました。その間、キャサリン台風による災害復興の難事業に骨身を削り、抜本的な水害対策に取り組み、立派な堤防を構築し、水害前を凌ぐ発展を見るに至りました。

また、利島川辺両村の合併を図り北川辺村を成立させると教育委員長に推され、合併後の教育諸施設の整備充実に努めました。

昭和34年には北川辺村長に選ばれ、二期にわたり土地改良、引堤問題の解決、農業構造改善事業の推進、道路改修による産業開発、統合中学校の建設、小学校の整備充実、村営水道の設置、有線放送計画等、近代自治体の合理化と発展に渾身の努力を傾けました。

先生の高大な理想は、先生を深く信頼する村民の支持と、先生の熱烈なる実行力により思う存分発揮されて、県下に誇る理想郷が実現しつつありました。しかしながら長年の辛労に健康を害し、昭和41年1月に69歳をもって急逝され、村葬の礼をもって厚く弔いました。

先生から親しく薫陶を受けた者や同志が相寄り先生の御高德を偲んで、北川辺西小学校のこの地に尊像が建立されたのです。